

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育現場で必要となる子どもの発達と子どもを取り巻く環境について理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点と向き合う姿勢を修得することを目的とする。保育実践において学修内容が活用できるよう、事例を取り入れて、イメージを明確化した上で、他者の意見を取り入れながら自分の考えを持てるよう講義する。病院や保健相談所での発達相談・育児支援の経験を活かし、子どもの発達援助につながる子育て支援の現代的課題の理解を深められるように指導する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：生涯発達とは何か
第 2 回	乳児期・幼児期の発達課題と援助
第 3 回	学童期の発達課題と援助
第 4 回	思春期・青年期の発達課題と援助
第 5 回	成人期・老年期の発達課題と援助
第 6 回	子育てを取り巻く社会的状況
第 7 回	家族・家庭の意義と機能／親子・家族関係の理解
第 8 回	子育ての経験と親としての育ち：ライフコースと仕事・子育て
第 9 回	多様な家庭形態とその理解
第 10 回	特別な配慮を必要とする家庭の理解
第 11 回	発達支援の必要な子どもがいる家庭の理解
第 12 回	子どもの精神保健
第 13 回	子どもと家庭支援に関わる現代的課題を考える：グループでの課題提案
第 14 回	子どもと家庭支援に関わる現代的課題を考える：グループディスカッションで理解を深める
第 15 回	子どもと家庭支援に関わる現代的課題を考える：グループワーク発表
第 16 回	定期試験

到達目標

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

履修上の注意

保育士資格取得のための必修科目である。テキストにあるキーワードや演習問題を中心に講義を行うので、テキストは必ず持参すること。グループワークには積極的に参加すること。適時、課題提出を実施する。遅刻3回で欠席1回とする。

予習・復習

予習：授業前にテキストを読んで、授業時に理解が深まるようにすること。

復習：テキスト・配布資料を振り返り、理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決し、学修の定着を図ること。

評価方法

定期試験（60%）、授業での取り組み（40%）によって行う。

授業での取り組みについては、授業内の課題の評価・提出状況、および授業態度なども考慮する。

テキスト

- ・教科書名：「子ども家庭支援の心理学」【シリーズ知のゆりかご】
- ・著者名：青木紀久代（編）
- ・出版社名：みらい
- ・出版年（ISBN）：978-4-86015-482-0